

## 年間第 2 5 主日の説教

金 大烈 神父 2010 年 9 月 19 日 (日)

### 《あなたは誰に仕えますか？》

主の平和！

皆様は洗礼を受けられる前に司祭の前で約束をしました。「悪魔を退けますか」等、色々質問されましたよね。また、信仰の更新の時には同じように言われます。その中で、「三位一体の神様を信じますか？」と言われたら、何と答えますか？「はい、信じます」でしょう。では、もっと易しく、やわらかく質問してみます。「イエス様を信じますか？」(「はい、信じます」)「聖霊様は？」「はい」では「御父は？」(「はい、信じます」)

どの様に信じていらっしゃるでしょうか。「信じないよりましだろう」「未来の事は分からないから、信じないより信じているの方が良いだろう」というような感じでしょうか。違いますか。どの様に信じていますか。命がけですか？ 毎日イエス様の事を思わなければ心が辛く、ミサに与らなかつたら心が痛くて、眠れない程の痛みを感じるでしょうか。2食くらい食事を抜いて、お腹が空いて「ご飯が食べたい！」という気持ちには負けるでしょうか。

皆様、どの様な状態であるか考えてみましょう。今日の福音の最後に何とありますか。皆でもう一度読んでみましょうか。

『どんな召使も 2 人の主人に仕える事が出来ない』

『あなた方は神と富とに仕える事は出来ない』

どういう意味でしょうか。お金は無視したり、お金の事を考えないようにとイエス様はおっしゃったのでしょうか。お金は必要なものですか？ 神様は必要ですか？ 両方必要ですよ(笑い)。ではどうすれば良いのですか、2つの中から1つを選びなさいと言われたら。

日本語では“金”に尊敬の意味を現わす“お”を付けて“お金”と呼びます。一部の人を除いて、殆どの人がその様に呼びます。初めの頃、私は違和感を覚えました。「何故、金に“お”を付けるのか」。もちろん、金は大事にしなければならないという意味からでしょう。しかし、それがし過ぎて金を持っているのではないかという気がします。金は必要です。自分に与えられている金を拒む事も罪です。一生懸命、勤勉に働いて金を稼ぐのは福音的な事です。しかし“金は使うもの”“神様は仕えるもの”です。この違いがあります。金は“良く”使うものです。金は儲ける目的があります。この世の中には金を稼ぐ事は分かっている、その使い方が分からない愚か者もいます。結局、金を拝んでいます。その様に生きて、金を手に握ったまま死んで何が待っているか分かりませんが。

皆様、この世の中で、金が生む色々な恵みもありますが、色々な悪い事もありますよね。その中で一番悪い事は何だと思えますか。“係わりの破壊”です。全ての係わり、家族でさえ、兄弟でさえ、金が原因になってめちゃくちゃになる光景をよくご覧になって来たと思えます。金は使うものです。正

しく、良く使うものです。神様は仕える方です。この違いを私たちがはっきり分かれば、いつ諦めるのが良いか、いつ諦めてはいけないか、何を諦めるべきかが分かります。

皆様は金の上にあります。皆様が金の上にいる様に全ての人間も金の上にあります。金を人の頭の上に置かないで下さい。その様になってしまったら絶対に「神様に仕えています」とは言えません。正しく神様に仕える事が出来たら、何が大事であるか、何が本当に小さなものであるかが分かります。

もちろん難しいです。今日読まなかったのですが、ある王が管理人に財産を任せます。ということは、神様が皆様の命を皆様に預けたのです。皆様の人生を預けたわけです。いつか私たちは返さなければなりません。どの様な形で返すつもりでしょうか。「お金をたくさん儲けました」とお金で返すつもりでしょうか。そうではないでしょう。私たちはどの様な生き方をして来たのか、どのくらい愛して来たのか、どのくらい神様の為に、イエス様の為に喜びながら犠牲を払う生き方を求めたのか、その姿が大切でしょう。

皆様、手遅れではありません。いつからでも、「これから始めよう」という気持ちが必要です。金は必要です。良く使わなければいけません。皆が貧しくいるのが神様のみ旨では絶対ありません。神様の本当のみ旨は、この世の中の全てが豊かさの中にある事です。皆がお金にも恵まれる事です。しかしそれが出来ない。出来ないから、私たちが持っていない人を哀れみの目でみましようという事です。

皆様、本当に神様が望んでいらっしゃるの、全ての人が経済的に困る事がなくなる事だと思います。しかし、私たちの欲の為に“分かち合い”が出来なくなり、“交わり”が出来なくなる。そして、今も飢えて死んでしまう赤ちゃんが世界の国々の中にはたくさんいます。また、びっくりしたのですが韓国では38分ごとに一人が自殺をするのだそうです。一日に何人が死ぬことになるのでしょうか。簡単に考えると30分に一人が自殺をするのです。昔、世の中が貧しかった頃には自殺をする人は殆どいませんでした。今はうつ病等、食べる為にがんばっていた時代には考えられなかった病にかかり悩んでいます。どういう気持ちでしょうか。30分に一人が死のうとするその気持ちは。実際に死んだ人は38分に一人ですが、しかし死を考える人々はどれくらいいるのでしょうか。

私たちに真の救いが与えられるその道を歩みましょう。私たちがイエス様を信じるのは、“信じてても信じなくてもいいのだろう”ではなく、“命”として考えていただきたいのです。

ありがとうございました。